

---

# 異世界ヒヨーリューキ

ルウさん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

「PDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

異世界ヒョーリューキ

### 【Zコード】

Z0177X

### 【作者名】

ルウさん

### 【あらすじ】

「俺がここに来てからもう一年か」「なーんて感慨に浸つてるうちに、変態の汚名を着せられ王宮騎士の資格を剥奪された青年。失われた住処に睡眠時間にetc、etcを取り戻すべく、青年は進む、異世界ファンタジー。

## 一話：勘違い

僕は何十年か昔、身勝手な神様によつて、異世界に飛ばされた。

説明すべき事は沢山あるのだけれど今は割愛させてもらひ。

いざれ話す時が来ると思う。

何故ここから話し始めるかといつて、後から考えてみると異世界に飛ばされたときより光陽歴一百一年一月三日、このときが僕の人生での一番のターニングポイントだったんだと思うからだ。

その日は僕が異世界に飛ばされてから、ちゅうび一年三日が経つたときだったと思う。

僕の目の前には一日前に降臨したばかりの少女が眠つていた??。

さて、なんて声をかけるか。

\*\*\*

前にはどじぞの王様が使つよつた厳かなベッド、その上にはマスターと寝音をたて一人の少女が眠つていた。

肩まで伸びた艶のある黒髪と整つた田鼻立ちと、巨乳という訳ではないがバランスの良い均整の取れた体つき、身長は百六十センチくらいだろう。

その上、王の従者が着せたである程純白のドレスがマッチして色気さえも醸し出していた。

「

」

思わず見入つてしまつてから、自分が彼女を王宮で行われる歓迎会に出席させる為、起こしに来た事を思い出す。

「あ～ どうすりやいんだよ……」

彼女は一日程前にこの世界に降りて来た俺と同じ地球人なのが、転移のショックとやらで既に一日と半程眠りこけている。

この後すぐ、三十分程で彼女の歓迎会が王宮で執り行われるのでもう起こさなくてはならない。

先輩が言つにはもう起こしても大丈夫だそうなのだが、何とも起こしにくい。

我ながら情けない、けど仕方ない、仕方ない事としても、時間は刻々と過ぎて行く。

それにしてもだ。

まあ、あれだ、起<sup>け</sup>すのは五歩譲つてまだいいことじよつ。

「だがそれからびつある 」

起<sup>け</sup>した所で、彼女は混乱の極みに陥るだろ<sup>ア</sup>。

地球で何をしていたかは知らないが、いつのまにか氣絶して氣がついたら赤いドレスに着替えさせられていて、ベッドに寝かせられている。

その上見知らぬ男に起<sup>け</sup>されたとなれば、田の前の少女はどう反応を示すだろうか。

最悪、悲鳴を上げ殴られてもおかしくない。  
は〜 と息を吐く。

「でも、悲鳴上げられて殴られるだけならまだ良<sup>い</sup>んだけど……」

今一瞬痛いとか、恥ずかしいとかそういうことならまだいい、しかし、その事によつてなにかあらぬ誤解をもたれてしまつとか、第一印象がが最悪になつてしまつとか、そういうことは正直勘弁してほしい。

なぜなら彼女とはこれから何年も、下手をしたら一生付き合つて行く事になるかもしれないから、その上これから当面彼女の面倒を看て行くのは自分の訛で、それが全て気まずい雰囲気になるのは御免だ。

以上の理由から俺は彼女を安易に起こせない。

「……………」  
結局どうすれば良いんだ

首をひねる。

「まあいまざいマズい……」そのままじゃいつまでたっても言い訳ばっかり垂れ流して優柔不断男になってしまつ

「なつてしまつじやなくて、むつ十分優柔不断男だと私は思つよ。田高は」

いつのまにか部屋に入つて来たのか、この先輩は気配を消すのが得意らしい。

「どうしたんですか、夏南先輩？」

「毎回言つてると思つが、その先輩つて言つてやめないか？」

トレーデマークの赤髪を揺らしながら言つ。

草原夏南、草原と書いてそつまひ。

彼女は199代の降臨者だ、キリッとしたややつり田氣味な田と俺と同じくらいの身長、赤髪が特徴の先輩である。

そして、道を歩いていてすれ違つたら十人中十人振り向く誰もが認める美人である。

「でも、夏南つて呼び捨てにするのは少し親しそぎやしませんか？」

「いいよ、私は気にしないから」

「ふむ、先輩は俺ともっと親しくなりたいと、そして一線を越えたいと、そういうわけですね」

「いや、別に一線越えたくはないんだが」

「親しくなりたいの方は否定しないんですね」

「つ！」

…

しまつたといふような顔をすると、赤面しながら黙り込んでしまつた。

そして赤面しながら、黙つている先輩を眺める。

ふう、和む

「つてそうじやない、この子起こさないと…」

和んでる場合じやない、歓迎会までもう時間がない。

「そうだな」

「変に落ち着いている場合じやないですよ…。つとマズい。もう時間ないつ」

「そうだな」

「だから、何で変に落ち着いてるんですか！？ 王宮主催のパーテ

イーですよー? 主役が遅れたなんて言つたら俺達がどんな罰受け  
るか!」

「俺達? それは違うな口高。罰を受けるのは私たちでなく世話係  
のお前一人だ」

「つつ! 裏切つたな先輩! !」

「何の事だか私にはさっぱりだが?」

「あれ? もしかしてさつきからかったこと根に持つて ぐあつ、  
先輩いくら図星だからつていきなりグーは無いんじゃ べべあ

つ  
「

もう一発入れられた、しかも強いのを。

「あーもう頼みますから先輩起こして下せー。同性ならまだましだ  
と思いますので」

「いやだな。それは君の役目だ。自分の役目へりこ自分で果たして  
もらわないと困る」

「一回頑固モードになつた先輩はもう手が付けられません! よー

しーー じつなつたらもうつ……」

ミッション1 遠くから声をかけてみる。

「お? い……」

ヘタレ。

ミッション1、失敗。原因

「起こす氣あるのか、日高？」

「ありますともー、見てて下さこよ、先輩！」

「うん」

「おーー？ー……」

「……………へタレッー！」

「誰がー！」

ミッショング ほつぺたに触つてみる。

「ミッショング、失敗。原因  
シャイ  
変態

「よーし、考えよう。もひとつ俺に適したやり方をー！」

ほつぺたを触る。一の舞になる可能性を考慮し、却下。  
ベッドを揺らす。力が足りなさうなので却下。

再度声をかける。再度一の舞になる可能性を考慮し、却下。  
身体を揺らす

却下。

顔をたたく

却下。

身体を触る

論外。

何か棒状の物でつつく

バカ。

まともな案が出てこない。

「こうして和泉田高はうじうじと悩み続け、結局王宮騎士の肩書きを剥奪されたのでした。めでたしめでたし」

「変な回想入れるな！」

「回鍋ですかー。見度が

「山陽」のモードノーブル

先輩  
い、もはまして実、込みが麗しい

「何の事ぢ？」

靴から白銀色の刀身かのそいでしる

「ここから、わざと起りせりへタレ田舎へ……」

「起しゃせーーー！」

そつとつて俺は少女にかかって、一る毛布こ手をかねた。

「おい！」

先輩が止めようとしているがもう遅い。

心を決め、目の前の少女にかかるつている毛布を勢いに任せてひつ  
ぺがした。

その直後、襲つて来たのは深い後悔。

目の前の少女が纏つたドレスは毛布の動きにつられたのか、スカ

ートは捲れ全体的に着崩れしている。

その少女の前には毛布を片手でつかみ少女に陰をかぶせる形で仁王立ちしている、自分。

終わった、といつ言葉が頭に響いた。

「キヤ——————！」

既に涙田の少女の絶叫が王宮に響き渡る。

直後甲高い悲鳴とともに、驚くべき速さで飛んで来た先輩の拳は当然避けられず、そのまま視界は暗転。

意識を失う直前思つたのが、よく見たひこの子めっちゃ可愛い！  
！ なんていうどうでもいいことで。

それが俺こと和泉日高が名譽や信頼や良い第一印象、その他諸々の物を無くした瞬間だった。





## 一話：勘違い（後書き）

ついにやってしまいました。

始めてしまったからには少しづつでも更新して行きたいと思いま  
すので、暖かい目で見守って頂ければ幸いです。

どんな小さな事でも良いので思った事があったら「指摘ください」。  
感想をとてもとても作者は待っています。  
よろしくお願い致します。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0177x/>

---

異世界ヒヨーリューキ

2011年10月14日03時17分発行